

SHINTOKU KŪSŌ NO MORI FILM FESTIVAL



第4回
SHINTOKU
空想の森
映画祭'99

主催:SHINTOKU空想の森映画祭実行委員会・北海道新聞社
後援:北海道教育委員会・新得町教育委員会
協賛:(株)日本エアシステム帯広支店・ホテルサホロ
協力:山形国際ドキュメンタリー映画祭
お問い合わせ:SHINTOKU空想の森映画祭実行委員会事務局
〒081-0039北海道上川郡新得町新内
☎・FAX 01566-4-3923

1999.7.16 FRI ▶ 20 TUE

会場:新得町新内ホール(旧新内小学校)
新得町公民館・新得町民体育館など

●映画上映、ワークショップの会場はそれぞれに異なります。詳しくはプログラムをご覧ください。

北海道は、かつて深い森におおわれていた。

新得もきっとそうだったのだろう。

トムラウシ山、十勝川、温泉など、今も人々を魅了してやまないものがここにはある。

私たちの小さな映画祭の会場は、新得町の中心から10キロほど離れた新内という集落にある。

30年程前に廃校になった旧新内小学校だ。

小ぶりの木造校舎、校庭には大きな柏の木が一本立っている。近くに川が流れ、周りの緑が美しいところだ。

なぜか、なつかしい気持ちにさせられる心地いい空間だ。

ここで一年に一回、様々な人たちが出会い、笑い、元気をもらって日常へ帰っていく。

小川豊之進さん。この地域に人植し、ずっと新内に暮してきた最後の人であった。この5月、他界してしまった。

小川さん、今年も私たちを見守っていてください。



追悼・小川豊之進さん

5月15日に亡くなられた小川豊之進さんをしのびます。新得を舞台とした映画「森と水のゆめ」に主演、
去年の映画祭のワークショップ「森を歩く」の講師を務めるなど、この映画祭そしてスタッフとも親交が深かった小川さん。
小川さんが私たちに残してくれたものに感謝しつつ、みんなで小川さんのことを語りましょう。「森と水のゆめ」も上映します。

●7月18日(日) 13:00~15:00 新内ホール



個



SHINTOKU空想の森映画祭も、おかげ様で今年4回目を迎えます。

去年から、私たちの暮らし「衣・食・住」を根底のテーマに映画、ワークショップ、コンサート、講演などをリンクさせ

参加滞在型の映画祭をめざしてきました。

今年は4本の核を柱にして、1つ1つのテーマを色々な角度から掘りさげてみました。



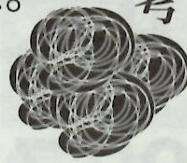
地



テーマは衣食住。

今年は4つの「核」を決めました。

- 羊と草原の文化に親しむ
- ダンスで体感・世界の文化
- 炭坑の20世紀
- 五感を研ぎ澄まし自然を感じよう



波



なぜ、ここで映画祭をやっているのだろう。

一回目にゲストで来てくれたおすぎさんは、「日本の映画祭には、まず行かない。

オリジナリティーがないから。でもあなたたちは、今回が初めてだから来てみたの」と言って帰って行った。

僕たちの、SHINTOKU空想の森映画祭のオリジナリティーはどこにあるのだろう。

僕はその源がここの新得の風土にあると考えてきた。では、風土とは何か。

去年と比べて、今年しみじみさびしいことがある。小川のじいちゃんが今年はいない。映画「森と水のゆめ」の主演、小川豊之進さんがこの5月15日に帰らぬ人となってしまった。去年の「じいちゃんと森を歩くワークショップ」は、ほんとうにぎわった。小川さんは、新得の風土そのものであったんだと、今にしてつくづく思う。

いつの日か、この映画祭や私たち自身が、風土となる日が来るのだろうか。

そんな日を夢見ながら、つかの間の5日間をとことん楽しみたい。

今年もまた出会いにカンパイ。

実行委員長 藤本 幸久

■映画祭立体構造

羊と草原の文化に親しむ

Movie

「永すぎた夏」
「また馬に乗りたい」
「迎える季節」

講演

等々力政彦
●「トッパ」民族の唄歌フォーメイ

Workshop

●唄歌に挑戦 ●馬頭琴を弾いてみよう 「タルバガン」ライブ
●モンゴルダンス ●羊とともに

Music

「タルバガン」ライブ

パセリ座
人形劇

報告会

「衣食住」
講演
中野益男教授
●文明の疫病神
タイオキシンの中で
どう暮らしていくか

五感を研ぎ澄まし自然を感じよう

Movie

「テルス・ウザーラ」
「森と水のゆめ」

Workshop

●ワンデーカメラ作り
●夜の森を歩く

Event

「ななおさき」詩の朗読会

絵画展

投銭ライブ

炭坑の20世紀

Movie

「プラス！」
「女ひとり大地を行く」
「おとし穴」

Event

●早川季良の野外展
コールレリーフ(石炭画)

屋台・
マーケット

「たう」
コンサート

あがた森魚
ライブ

ダンスで体感・世界の文化

Movie

「ガッジョ・ディーロ」
「カルメン・ミランダ」
「フラメンコ」
「アイヌの結婚式」

Workshop

●アフリカダンス
●ハワイアン・フラ
●アイヌ舞踊 ●ペルーダンス
●フラメンコ

Program

M 映画 S ステージ W ワークショップ 講 講演 ★ その他のイベント

	新内ホール	新得町公民館	その他の会場
7/16 金	<p>●20:30~ オープニングParty 参加料¥1,000(軽食・1ドリンク付)</p> <p>← 映画上映後、新内ホールに移り、あがた森魚さんとともに前夜祭を演じましょう。</p> <p>♪ 21:30~ あがた森魚トーク&ライブ</p>	<p>M オープニング上映 18:30-20:10 -「港のロキシー」 ※あがたさんの舞台挨拶があります。</p>	<p>★ 北海道初</p>
7/17 土	<p>M 10:00-11:58『バイナッブルツアーズ』</p> <p>講 13:00-14:30『トゥバ民族の喉歌フォーメイ』(入場無料)</p> <p>W 14:30-15:30『喉歌に挑戦』(入場無料)</p> <p>M 16:00-17:20『メタル&メランコリー』</p> <p>★ 18:30-19:00『モンゴル遊牧民族風手作りフェルトのできるまで』</p> <p>♪ 19:00-21:00アジア中央部民族ユニット 「タルバガン」ライブ</p> <p>★ 21:00-22:30『Let's get together!』 ナイスのみなさんとの交流会</p>	<p>上映後 モンゴルダンスの デモンストレーション があります</p> <p>M 11:00-12:35 『永すぎた夏』</p> <p>M 14:30-15:27 『また馬に乗りたい』</p> <p>M 16:00-17:25 『迎える季節』</p> <p>M 19:00-20:43 『アントニア』</p>	<p>W 10:00-13:30『羊とともに~草原の暮らし』 集合場所:新内ホール・参加費:1,500円</p> <p>W 10:00-18:00 『OneDayカヌー作り~入門編』 集合場所:トムラ登山学校クライミングタワー下 カヌー製作費:48,000円・保険料500円以内</p> <p>W 10:00-12:30『馬頭琴を弾いてみよう』 場所:新得町民体育館・参加費:1,500円</p> <p>W 14:00-16:00『モンゴルダンス』 場所:新得町民体育館・参加費:1,000円</p> <p>W 19:00-20:30『夜の森を歩く』 集合場所:新内ホール・参加費:500円</p>
7/18 日	<p>講 10:00-12:00『カメラがみた子供たちの世界』 M『自転車』(30分)『放課後』(20分)</p> <p>★ 13:00-15:00『追悼・小川豊之進さん』 M『森と水のゆめ』(72分)</p> <p>★ 15:30-18:00 ななおさかき『詩の朗読会』 (入場料:1,500円)</p> <p>♪ 16:00-17:30 投銭ライブ(野外) ※雨天時は中止</p> <p>♪ 19:00-20:00 投銭ダンスステージ(野外) ※雨天時は新内ホール</p> <p>♪ 20:30-投銭ライブ</p> <p>出演者募集中</p>	<p>M 10:30-12:08 『フラメンコ』</p> <p>M 13:00-14:40 『ガッジョ・ディーロ』</p> <p>M 16:00-17:40 『キューボラのある街』</p> <p>M 18:15-19:47 『カルメン・ミランダ』</p>	<p>W 10:00-12:00 『アフリカン・ダンス』 場所:新得町民体育館・参加費:2,500円</p> <p>W 13:00-15:00『ハフィアン・フラ』 場所:新得町民体育館・参加費:1,000円</p> <p>W 13:00-15:00『アイヌ舞踊』 場所:公民館(中ホール)・参加費:1,000円</p> <p>W 15:30-17:30『フラメンコ』 場所:新得町民体育館・参加費:1,000円</p> <p>W 15:30-17:30『ペルーダンス』 場所:公民館(中ホール)・参加費:1,000円</p>
7/19 月	<p>M 13:00-13:33『アイヌの結婚式』</p> <p>★ 14:00-『美加代のヒマラヤ報告』入場無料 15:30-『田代陽子・世界の映画祭報告その①』(入場無料)</p> <p>♪ 19:00-20:30『たう』コンサート</p> <p>M 21:00-22:09『鷺鷥歌合戦』</p> <p>M 22:30-23:50『メタル&メランコリー』</p>	<p>M 11:00-12:15 『心のごもった台詞』</p> <p>M 13:00-14:32 『カルメン・ミランダ』</p> <p>M 15:00-17:17 『女ひとり大地を行く』 (入場無料)</p> <p>M 19:00-20:27 『黒蜥蜴』</p>	<p>期間中開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ●屋台・マーケット 新内ホール・7/17(土)~20(火) ●「コールレリーフ(石炭画)野外展」 地底人の記憶・現代美術の語り~新得 新内ホール・7/17(土)~20(火) 入場無料 ●「新得の自然をたずねて~風景と花(絵画展)」 新得町公民館・7/16(土)~29(木) 入場無料
7/20 火	<p>★ 11:00-12:00『人形劇』バセリ座</p> <p>M 12:30-14:17『プラス!』</p> <p>M 14:40-15:20『闇を撮る・ラッシュユ』</p> <p>★ 13:00- コールレリーフ野外展 作者が来場し一緒に見ます。</p> <p>講 16:00-18:00 『文明の疫病神・ダイオキシンの中で どう暮らしていくか』</p> <p>●18:30~ さよなら Party 参加料¥1,000(軽食・1ドリンク付)</p>	<p>M 10:00-11:37 『カフェ・ブダベスト』</p> <p>M 13:00-14:35 『おとし穴』</p> <p>M 15:00-17:21 『デルス・ウザーラ』</p>	

M 5日間 All-Line-Up Movie

北海道初公開



※また16日当日は映画上映終了後に新内ホールにてあがた森魚さんの「LIVE&トーク」も企画しています。お楽しみに!

16日

インラインスケートで函館の街を疾走する二人の若者。オリンピックを目指すアイスホッケー選手、健三。街をたむろするストリートスケーター、橋本。そんな二人に関わるのは、両親を失くし社会からも孤立しあてどなく暮らす橋本の姉、菜穂子。三人を待ちうける事件とは...。あがた森魚が夏の函館を舞台におくる、20世紀末の「おそろべき子供たち」。一般公開に先がけ上映。

「港のロキシー」

(35mm、カラー、90分、日本、1999年)
監督:あがた森魚 出演:岡和則、藤丸美哉、河原孝俊

「永すぎた夏」

(35mm、カラー、95分、モンゴル、1987年)
監督:J.セレングスレン
出演:D.ソソルバラム、O.オヨーン

湖畔の港町にやってきた足の不自由な娘アリョーナ。足が良くなりたいのは精神状態にあると知った人夫のガラーは彼女の心を外に向けようとしてゆく。次第に癒されるアリョーナと、不正に正面きつてぶつかつた中で次第に遠い距離からゆくガラー。ついには罪を失い暴行容疑で連行されることに...。湖や雲をいただく山々の美しい作品。(国際交流基金提供・エースジャパン協力)

17日 「迎える季節」

(35mm、カラー、85分、モンゴル、1986年)
監督:J.ポントラル
出演:L.ロブサン、B.ゲレルマー



兵役に行った恋人ゴトブを待ちわびるマラルマーとその父バガヤ。この老羊飼いは近頃の若者や家畜の過保護には批判的だが、病のためゴトブの父親に羊を預けようとする。しかし断られ、別の娘がゴトブの妻に。自然からの恵みを満喫する祝祭の夏、ゴトブの帰還が迫る。つるバガヤ父娘の焦燥、バガヤが羊について語る言葉は人間への言葉であり、遊牧文化と現代文化への思索である。日本でもテレビ放映された「偉大なタカ」(83年)の監督、J.ポントラルの作品。(国際交流基金提供・エースジャパン協力)

「また馬に乗りたいたい」

(35mm、モノクロ、57分、モンゴル、1959年)
監督:R.ドルジバラム
出演:D.ロブサンチミド、B.スフツェレン

馬飼いのドンドグは、ある日馬と車とで競争する破目になり、誤って組合の馬を死なせてしまう。それから何をしてもうまくいかず、職まで失うことになる。ところがある吹雪の日、逃げ帰る馬の姿を見ればドンドグはひとり駆け出してゆく...。牧畜の集団経営が完成された、社会主義の時代、馬に対する思い入れが描かれた、モンゴル映画界の巨匠ドルジバラムによるラブコメディの傑作。(国際交流基金提供・エースジャパン協力)

「アントニア」

(35mm、カラー、103分、オランダ・英・ベルギー、1995年)
監督:マルレーン・ゴリス
出演:ヴィレケ・アムローイ、エルス・ドッターマンス

母の死を期に、故郷の農村に戻った太陽のような女性アントニア。種を蒔き、娘や孫娘の成長を見守る彼女の美しい人生をつづる。
●95年アカデミー外国語映画賞

「パイナップル ツアーズ」

(標準語字幕付き、16mm、カラー、118分、日本、1992年)
監督:真喜屋力、中江裕司、富岡早志
出演:照屋林助、利重剛、洞口依子
ミクロナシア北西に位置するオキネシア。このどこかにある架空島嶼「真喜屋島」でくり広げられる3つのしごき(沖縄語)ととても大変な物語。星守りし、ユタ(占い師)に占ってもらったオペラ歌手の蘭子が、病気を治すため不発弾を探すハメになる「蘭子おばさん」他「香子とヒデオシ」「爆弾小僧」のオムニバス。●92年ベルリン国際映画祭ヤングフォーラム正式出品作品

「メタル&メランコリー」

(16mm、カラー、80分、オランダ、1993年)
監督:エディ・ホニグマン
多彩なタクシー運転手の語りと助手席から見える風景で、ペルーの首都リマを切りとったユニークなロードムービー。登場するタクシー運転手は教師、経済学者、俳優、主婦など様々。彼らの披露する話には、人生の教訓、感情、情熱と苦痛、そして希望に満ち、会話の相手である監督の人々に対する想いが画面から伝わってくる。
●山形国際ドキュメンタリー映画祭95年最優秀賞

18日 「ガッジョ・ディーロ」

(35mm、カラー、100分、フランス・ルーマニア、1997年)
監督:トニー・ガトリフ
出演:ロマン・デュリス、ローナ・ハートナー

色鮮やかな衣服をまとって踊り、花の香りを体につける女たち。楽器を片手に叫ぶように唄う男たち。幻の歌姫を探して旅をするパリの青年ステファンはロマ・ジプシーの村にたどり着く。欲望のおもむくままに歌い踊り、真の自由をもつサビーナとの恋、質素でたくましいロマとの共同生活を通じ、大切なものを見つけていく。
●97年ロカルノ国際映画祭銀豹賞ほか計5部門/97年モントリオール世界映画祭特別賞、その他多数受賞

「自転車」

(16mm、カラー、30分、日本、1999年)
監督:小林茂
「放課後」の結編。「つばさクラブ」の小学6年生12人と8人の仲間たちが北海道一周サイクリングに旅立つ。無心に自転車をこぐ子どもたち。黙のように食べ、泥のように眠る...。7泊8日、長万部から函館への380キロ。子どもたちの生き生きとした表情を真正面からカメラがとらえる。子どもたちの元気が見るものに伝わってくる出色のドキュメンタリー。

「放課後」

(16mm、カラー、20分、日本、1997年)
監督:小林茂
「しらかば台つばさクラブ」は父母が運営する民間の共同学童保育所。私は97年の春に初めてここを訪ねた。狭い場所でエイサーを踊る子、コマやけん玉が乱れ飛び、障害をもつ子ども健常児もなく、子供はごつたがえし、その表情には「なつかしさ」があふれ...。「カメラを回したい!」と思いました。(小林茂)

「森と水のゆめ」

(16mm、カラー、72分、日本、1998年)
監督:藤本幸久
出演:小川豊之進、横須賀邦子
トムラウシ山麓の原生林も、今はわずかな面積を残すばかり。しかし、その懐では、朽ちゆく樹木の上で新しい芽が育ち、悠久の営みが繰り返されてきた。「100年もすればここも良い森になる」。ラストシーン、小川さんは若い木に語りかけるようにつぶやいた。(5月に亡くなった小川豊之進さんを偲び再上映)

「フラメンコ」

(35mm、カラー、98分、スペイン、1995年)
監督:カルロス・サウラ
出演:ハコ・テルシア、ホアキン・コルテス
フラメンコ・ギター1本で世界を制覇したとまでいわれるギターの神匠「コ・テルシア」若き天才ハイラオール(男性舞踊家)で今や絶大な人気を誇るホアキン・コルテスが、名だたるアーティストが出演し、古典からモダンまで見せるフラメンコ・ドキュメンタリー映画。

「キューポラのある街」

(16mm、モノクロ、100分、日本、1962年)
監督:浦山桐郎
出演:吉永小百合、浜田光夫
浦山桐郎の監督デビュー作。職人気質の頑固な父を持つ姉が、貧しいながらも、けなげに生きてゆく様子を描いている。世相を反映した社会状況が織り込まれているが、監督はあくまで日常的にとらえ、さわやかな感動を呼ぶ。当時18歳の吉永小百合はこの作品で史上最年少のブルーリボン賞主演女優賞を受賞。
●62年キネマ旬報第2位

「カルメン・ミランダ ~バナナが商売」

(35mm、カラー、92分、ブラジル・アメリカ、1994年)
監督:ヘレナ・ソルバーク
ブラジルの歌姫からハリウッドに進出、多くのミュージカル映画に出演し、麗気でセクシーな「ラテン・アメリカ女性像」のイメージを作り上げたカルメン・ミランダ。ポルトガルで生まれ、ブラジルで花開き、最後にはアイデンティティを見失ってしまった彼女の軌跡、ミランダの素晴らしい歌、ブラジル音楽も楽しめる。●山形国際ドキュメンタリー映画祭95年コンペティション出品作品

19日 「黒蜥蜴(くろとかげ)」

(35mm、カラー、87分、日本、1968年)
監督:深作欣二
出演:丸山明宏(美輪明宏)、丹波哲郎
怪盗・黒蜥蜴と名探偵・明智小五郎との戦いを描く、三島由紀夫の二度目の映画化。丸山(現・三輪)明宏のために、三島が書き改めたという劇だけに、彼の魅力が十二分に発揮されている作品。三島自身も特別出演している。

20日 「カフェ・ブダペスト」

(35mm、カラー、97分、ハンガリー・ドイツ、1995年)
監督:フェケテ・イボヤ
出演:ユーリ・フォミチェフ、イーゴリ・チェルニエヴィッチ
ブダペスト。古くは二重帝国支配に対するカウンターカルチャーの都市として、東西対立の時代には、東側でもっとも豊かで自由な都市として、あたかも深夜のカフェの喧騒のような賑やかな空気をたたえてきた街。時は世界中を熱狂に巻き込んだ東ヨーロッパ革命のころ。東の若者は壘を切ったように西へ向かい、西の若者もその熱狂にあずかろうと東へ向かった。世界中からの自由と興奮を求める若者たちが行き交う混沌とした青春のクロスロード(十字路)。
●96年ソチ国際映画祭グランプリ

「アイヌの結婚式」

(16mm、カラー、33分、日本、1971年)
製作:民族文化映像研究所
北海道沙流郡平取町二風谷(にふたに)で、1971年4月10日アイヌ流の結婚式が行われた。結婚から始まるアイヌの結婚式は仰々しい形式や儀礼がまったくない。真摯な、笑いの顔、寝室を飾る品々、そして若い二人を包む熱狂的な歌や踊り。アイヌ民族の生活的背景と素朴で熱狂的なその民族性をうかがうことができる記録映画。
●72年東京都教育映画コンクール奨励賞ノイリア・オポリ映画祭入賞/文部省選定

「鴛鴦(おしどり)歌合戦」

(16mm、モノクロ、69分、日本、1939年)
監督:マキノ正博
出演:片岡千恵蔵、志村喬、ディック・ミネ
一部のファンの間でカルト・ムービーとなっている時代劇ミュージカル傑作。日中戦争が始まって2年目、戦争をテーマとした映画が多い中、監督マキノはひたすら軽快で軽妙な映画を製作。「ボクは陽気な歌謡...」と歌いながら登場してくるディック・ミネといひ、珍しく思わぬ歌を聞かされてくれる名優・志村喬といひ、思わず爆笑し感心してしまう場面がいっぱい。

「心のこもった台詞(せりふ)」

(35mm、カラー、75分、スウェーデン、1996年)
監督:クリスティーナ・ワールフゾン
スウェーデンを代表する女優3人が、1994年にこの世を去った映画監督女優でもあったマイ・ゼッティングの南フランスの家に集まる。監督イングマル・ベルイマンの映画・舞台のヒロインとして知られた彼女達は、ゼッティング監督の映画で共演。久かたぶりの再会を果たした3人は、若い年齢を迎えながらもユーモアと知性、寛容さによって輝き続ける。
●山形国際ドキュメンタリー映画祭95コンペティション部門出品作品

「女ひとり大地を行く」

(16mm、モノクロ、137分、日本、1953年)
監督:亀井文夫
出演:山田五十鈴、宇野重吉
爆弾事故で死んだとされた父にかわって、炭坑労働者となった母とその息子の姿を中心に、炭坑労働者の生活や組合の闘いをドキュメンタリータッチで描いた作品。やがて死んだと思われていた父がひょっこりと姿をあらわす。夕張など北海道の炭坑を舞台に撮影された。

「メタル&メランコリー」

22:30-23:50
19日再上映
「カルメン・ミランダ ~バナナが商売」
新得公民館 13:00-14:32

「ブラス!」



(16mm、カラー、107分、イギリス、1996年)
監督:マーク・ハーマン
出演:ピート・ポスルスウェイト、ユアン・マクレガー、タラ・フィッツジェラルド
炭坑閉鎖の波に揺れる街。生きる希望さえも失いかけた人々の心をひとつにし、勇気と希望を与えてくれたもの、それは音楽だった。炭坑夫の仲間達で結成されたグリムリー・コリアリー・バンドが、街のそして彼ら自身の尊厳と誇りを賭けて全英選手権に出場し、決勝会場のロイヤル・アルバート・ホールを目指す。
●97年ベルリン国際映画祭正式出品、97年サンダンス・フィルムフェスティバルオープニング招待作品

「闇を掘る(ラッシュ)」

(16mm、カラー、40分、日本)
監督:藤本幸久
炭坑の男達の夢を壊したい!と撮影を始めた。2000年秋、完成予定の未編集フィルム上映。「たう」の波多野重子さん、野原展の早川厚良さんも出演している。乞うご期待。

「おとし穴」

(35mm、モノクロ、95分、日本、1962年)
監督:勅使河原宏
出演:ユウリイ・ソローミン、マキシム・ムンズーク
不況に追い込まれた北九州炭坑地帯で、互いに抗争する第一組合と第二組合、やがて2つの組合の双方に疑惑を持たせるような事件が次々と起こり、その影にはいつも、不思議な坑夫の姿があった。阿部公房の「煉獄」をベースにした、ドキュメンタリー出身勅使河原宏の長編映画第1作目。

「デルス・ウザーラ」

(35mm、カラー、141分、旧ソ連・日本、1975年)
監督:黒澤明
出演:ユウリイ・ソローミン、マキシム・ムンズーク
天涯孤獨で家を持たずウズリー地方の密林の自然とともに暮らしている黒師、デルス・ウザーラ。地質調査のために、ウズリー地方に入ったアルセーニエフはデルスと出会い、大自然を要する彼に感動し、2人は強い友情で結ばれていく。黒澤は30年間この作品の映画化を胸に抱き、準備と撮影に2年半を費やしたという作品。●75年アカデミー外国語映画賞/75年ベルリン国際映画祭グランプリその他多数受賞



●モンゴルダンス

遊牧民の生活を表現したモンゴル民族の伝統的な踊りを体験します。ダンスの名手フホダイさんが、モンゴルの心を伝えたいと、美しい民族衣装をまとい、踊る「草原の少女」も必見です。

- 日時:7月17日(土)14:00~16:00
 - 場所:新得町民体育館・軽スポーツ室
 - 定員:30名(男・女)
 - 参加費:1,000円(中学生以下無料)
 - 服装:動きやすいもの。上靴。
 - 講師:フホダイ
- 内モンゴル・フホト生まれ。内モンゴル師範大学音楽部に入学生、翌年神戸学院女子短期大学に留学。現在は新和女子大学に在籍。彼女の踊りは神戸新聞、NHK、BSなどで紹介されている。

●アフリカン・ダンス

西アフリカの音楽と文化のエッセンスである、太鼓とダンスのコミュニケーションの方法を学んで楽しめます。パンバラ族オリジナルの太鼓であるジンベの生演奏とともに、生活の様々な場面で踊られる伝統的なステップを体験します。

- 日時:7月18日(日)10:00~12:00
 - 場所:新得町民体育館・軽スポーツ室
 - 定員:40名(男・女)
 - 参加費:2,500円
 - 服装:動きやすいもの(裸足)
 - 講師:柳田知子(東京)
- カリフォルニア大学(UCLA)大学院ダンス学部卒業。専門は西アフリカ、及びアフリカ系黒人の舞踊史。モダンダンスの創作や舞踊民族学の研究のかたわら、ライブやワークショップ、レクチャーを通してパンバラ、ウォルフ、マンティンゴ等の西アフリカ民族の「ダンスと文化」を伝える。
- ドラマ:渡邊由香、石井さやか、飯田知樹、広田真志

●ハワイアン・フラ

自然の美しさや恋する気持ち、手首から指先を使って表現します。初心者にも簡単に踊れる「アロハ・ウクレレ」を体験します。

- 日時:7月18日(日)13:00~15:00
 - 場所:新得町民体育館・軽スポーツ室
 - 定員:30名
 - 参加費:1,000円
 - 服装:無地のランニングあるいはTシャツ(裸足。腰に巻きつける布は用意します)
 - 講師:池田幸子、河崎頼子、新妻ひとみ(帯広)
- ハワイアン・フラに憧れ、3年前よりレッスンを始める。現在は、帯広を中心に芽室、士幌にて80名程の生徒の指導にあたる。生徒であった河崎さん、新妻さんも指導者として活躍中。

●アイヌ舞踊

自然をテーマにしているものが多いアイヌ踊りの中から、バッカ、きつねの踊りを中心に十勝地方の踊り、歌を覚えます。

- 日時:7月18日(日)13:00~15:00
 - 場所:新得公民館・中ホール
 - 定員:30名(男・女)
 - 参加費:1,000円(中学生以下無料)
 - 服装:動きやすいもの
 - 講師:広尾 正(帯広)
- 37年前よりアイヌ古式舞踊を歌い、踊り始める。アイヌ文化アドバイザーとして、アイヌ刺繍、舞踊の指導など各方面で活躍中。

Workshop

参加者募集

※詳しくは映画祭事務局まで

今年の映画祭の柱となる「4つの核」から、11のワークショップが生まれました。普段、何だか気になっていたこと、興味のあるあの国のこと、一度チャレンジしてみたかったことなど、頭と体で感じて、自分の中に取り込んでみるチャンスです。それぞれの世界にどっぷりハマっている講師の皆さんと、その世界を楽しんじゃいましょう。

●OneDayカヌー作り入門編

ワンデーカヌーとは:

1日で完成させる事が可能なカナディアンカヌー。初心者向きのもので湖、沼などで楽しめます。

- 日時:7月17日(土)10:00~18:00
 - 集合場所:トムラ登山学校・クライミングタワー下
 - 定員:20名
 - カヌー製作費:48,000円(一艘)、保険料:500円以内
 - 持ち物:タオル、弁当 ※汚れてもいい服装
 - 講師:湊隆蔵(新得)
- (株)湊商会アウトドア事業部・TOM代表。カヌー作りを始めて丸5年。夢は十勝川にカヌーのジャパンカップが開催されること。
※屈足湖畔でカヌー製作。一艘につき最大5名まで一緒に作れます。簡単な講習、屈足湖でのカヌー一試乗付き。
雨天の時は、別の場所で製作します。
- ◎申し込み〆切:7/7(水)



●フラメンコ

スペイン・アンダルシア地方で生まれ、異文化と混じり合いながら変化を遂げてきたフラメンコ。スペインの人々に広く愛されているお祭りの踊り「セビジャーナス」を体験します。

- 日時:7月18日(日)15:30~17:30
 - 場所:新得町民体育館・軽スポーツ室
 - 定員:30名
 - 参加費:1,000円
 - 服装:Tシャツとフレアスカート、ヒールのある靴
 - 講師:武田真澄(帯広)
- 指導者を経て、現在は東京・札幌の講師の指導を受けながら練習に励む。「ジプシー舞踊の土臭さに触れたい」と今年9月に渡西予定。猪谷みゆき(帯広):97年に渡西し一流ダンサー、マテイルテ・コラルより指導を受ける。「私はフラメンコとともに日々楽しく生きる」が口癖。

●ペルーダンス

ペルー・インカ時代からの伝統的な踊りである「ワイノ」から、中南米、南米で広く踊られているキューバ発祥のダンス「サルサ」を体験します。

- 日時:7月18日(日)15:30~17:30
 - 場所:新得公民館・中ホール
 - 定員:30名(男・女)
 - 参加費:1,000円(中学生以下無料)
 - 服装:動きやすいもの。女性はフレアスカート。
 - 講師:中村マリオ&ロサーナ
- 7年前にペルーより来日。札幌ファクトリー・レンガ館にてペルー雑貨店「インカノミチ」を経営。ワークショップ、ダンスステージを通してペルー文化の魅力を紹介している。

●夜の森を歩く

視覚以外で、どんな森を感じることができるでしょうか。メイン会場近くの森の中で一時を過ごします。

- 日時:7月17日(土)19:00~20:30
- 集合場所:新内ホール
- 定員:20名
- 参加費:500円(中学生以下無料)
- 持ち物:防寒着、長靴、軍手、敷物、タオル、帽子、虫よけ
- 講師:河田充(上士幌):ひがし大雪自然ガイドセンター自然案内人。97年「ひがし大雪自然ガイドセンター」を立ちあげる。ネイチャーガイドとは、自然と人をつなぎ心を通じ合わせる仕事だという。小澤克彦(上士幌):ひがし大雪自然ガイドセンター自然案内人。ガイドセンター立ちあげの時からスタッフとして関わる。夢は、穂平を拠点にして、世界に向けたエコツアーを企画すること。

●羊とともに~草原の暮らし

バイ・フホムチさんと共に、新得町内の羊を巡る「日蒙比較羊学」ツアー。スライドを見ながら遊牧生活のお話を聞いた後、共働学舎、ヨークシャー・ファームを見学。青空の下、羊を見ながら「草原座談会」。最後に羊の丸焼きを試食します。

- 日時:7月17日(土)10:00~13:30
 - 場所:新内ホール
 - 定員:20名
 - 参加費:1,500円
 - 講師:バイ・フホムチ
- 中国・内モンゴル自治区ホンゴル草原生まれ。ジャーナリストであり、国が認める数少ない詩人、翻訳者の一人。札幌大学に在籍。今春、「北海道モンゴル文化の会」設立。

●馬頭琴を弾いてみよう

モリン・ホール(馬頭琴)は民話「スーホの白い馬」等の伝説とともに約1000年前からモンゴル周辺に伝わる擦弦楽器。草原のチェロとも称され、のどかで土臭い音色です。内モンゴルの名曲「天の風」をみんなで弾きます。

- 日時:7月17日(土)10:00~12:30
 - 場所:新得町民体育館・軽スポーツ室
 - 定員:20名
 - 参加費:1,500円
 - 講師:嵯峨治彦(札幌)
- トゥバ共和国の喉歌「ホーメイ」と出会い、「のどうたの会」を結成。馬頭琴を独学で習得、演奏活動を開始する。ユーミンのコンサートツアーに喉歌で出演。さらにCD「スエアの波」のレコーディングに参加。98年に1stアルバム「天の風」発表。

●喉歌(のどうた)に挑戦

「ひとりでもほりたい!」そんなあなたの「非常識」な願望を、たやすく(?)かなえてくれます。喉歌の発音の原理、基本的な発声法からはじまり、最終的には「2つの音」を出し、音階をつけてみます。講師によるミニライブ付。

- 日時:7月17日(土)14:30~15:30
- 場所:新内ホール
- 参加費:無料
- 講師:嵯峨治彦

「客観的じゃなく、主観的にいこう。」

★開始時間10分前に各会場へお集り下さい。
★いずれのワークショップも事前のお申し込みが必要です。7月1日(木)より受付を開始します。定員になり次第、締め切らせていただきます。

Stage

アジア中央部民族音楽ユニット

●「タルバガン」ライブ

等々力政彦と嵯峨治彦による日本発の世界初「喉歌」ユニット。草原を吹きぬける風を連想させる喉歌と馬頭琴のアンサンブル。

●日時: 7月17日(土) 19:00~21:00

●場所: 新内ホール

●タルバガン(TARBAGAN)プロフィール

別々に活動していた2人がインターネットを通じて意気投合し、ユニットを結成。CD「タルバガン大地に立つ」を発表。第3回国際ホーム・コンテスト(ロシア連邦トウバ共和国)の外国人部門で優勝、総合でも準優勝の快挙を果たす。

●「たう」コンサート

波多野信子(ピアノ)、塚田たかや(ギター、パーカッション)、宇井ひろし(ギター、ハーモニカ)。メンバーそれぞれの生活の中から生まれた詩、音楽を奏でます。楽しく、元気の出るコンサートです。

●日時: 7月19日(月) 19:00~20:30

●場所: 新内ホール

●たうプロフィール

96年2月、ゆうばり国際ファンタスティック映画祭でデビュー。北海道各地で演奏活動を展開中。

●「DANCE! DANCE! DANCE!」

~投銭ダンス・ステージ

ダンス・ワークショップの講師の皆さんが、民族衣装をまといステージに登場。フラメンコ、ハワイアン・フラ、ベリーダンス、アイヌ舞踊、それぞれのダンスの魅力を披露します。踊り手をのせるのも(おひねり大歓迎!)お客さん、あなた次第です。

●日時: 7月18日(日) 19:00~20:00

●場所: 新内ホール

●投銭ライブ

空の下、ゆつりお酒を片手に見るもよし、お気に入りのミュージシャンを探すもよし。どんな楽器が出てくるか。どこの国の言葉が飛び出してくるか。未知なるステージに乞うご期待!

●日時: 7月18日(日)

夕方の部 16:00~17:30

夜の部 20:30~

●場所: 新内ホール

●「Let's get together!」

~NICEのみなさんとの交流会

今年は、世界中のネットワークで結ばれているNGO組織、NICEのメンバーも映画祭のスタッフとして参加。あまり知られていないNICEの活動についての報告、そして、映画祭スタッフたちとの交流会を開きます。誰でも参加自由。ゲームなどもおこなえながら、気軽に楽しく色々な人たちと出会えます。

●日時: 7月17日(土) 21:00~22:30

●場所: 新内ホール

●NICEとは:

国際ワークショップを主催するNGO組織。世界の若者が数週間、その地域の人達と一緒に生活しながらボランティア活動に取り組む国際協力プログラム。

講演

●「トウバ民族の喉歌フーメイ」

~アジア中央部にみられる喉歌との比較
等々力政彦

同時に複数の音を出してメロディを奏でる「喉歌」。この不思議な歌唱法はアジア中央部に広がる大草原で暮らす人々に古くから歌い継がれてきました。喉歌の底知れぬ魅力と秘密を民俗学的観点からやさしく解明します。

●日時: 7月17日(土) 13:00~14:30

●場所: 新内ホール ●入場無料

●講師プロフィール

子供の頃から高山植物、特にハイマツの魅力にとりつかれ、大学入学後そのルーツを求めてシベリアへ。日本に紹介されることの少なかったシベリア少数民族、特にトウバ民族の音楽に魅かれる。CD-Rom写真集「トウバ」を発表。現在、大阪大学大学院工学研究科に在学中。

その他のEvent

●「ななおさき」詩の朗読会

地球を歩き、足で歌い続ける詩人、ななおさきが今年4月に発売した詩集「ココベリ」をたずさえ新内にやってきます。アメリカ原住民の間に生きる精霊ココベリ。背中のごぶに種子を選び、笛を吹いて歩きます。

●日時: 7月18日(日) 15:30~18:00

●場所: 新内ホール

●入場料: 1,500円(高校生以下500円)

●「人形劇」パセリ座

前座は宮沢賢治原作のテーブル人形劇、「カイロ団長」。次に「マリオネットのサーカス」。アシカのキャッチボール、ライオンの輪くぐり、空中ブランコなど、ゆかいな人形たちのサーカスをお楽しみ下さい。

●日時: 7月20日(火) 11:00~12:00

●場所: 新内ホール

●パセリ座プロフィール

85年結成。新得町在住の農業を営む能登秀雄・真由美夫妻が自作したマリオネット人形は、札幌人形劇祭で美術賞受賞。十勝を中心に公演を行っている。

会期中開催●入場無料

●「新得の自然をたずねて~風景と花」

~大越いく代絵画展

●場所: 新得町公民館 ※7/29(木)まで開催

●作者のこぼれ:

「心の癒しになるような絵が描けたらいいなあ」と憧れを持って描きつづけています。

●「カメラが見た子供たちの世界」

小林 茂

札幌の民間の学童保育所「しらかば台つばさクラブ」の子供たちの日常を撮った映画「放課後」に引き続き、今度は彼らの北海道一周サイクリングの様子を撮った「自転車」が完成した。2本の映画上映、小林監督の講演に、つばさクラブの子供たちも多数参加の予定です。

●日時: 7月18日(日) 10:00~12:00

●場所: 新内ホール

●講師プロフィール

写真家。記録映画カメラマン。

「阿賀に生きる」で、日本映画撮影監督協会第1回JSC賞受賞。現在、「闇を掘る」を撮影中。

●「文明の疫病神・ダイオキシンの

中でどう暮らしていくか」

中野益男

古代の人々の遺物から、どんなものを食べて、どんなふうに住らしていたのかをさぐり、そして今、私たちの生活を見直す時期、という中野先生。

昨年の講演「縄文から未来へ」に引きつづいた第2弾。

●日時: 7月20日(火) 16:00~18:00

●場所: 新内ホール

●講師プロフィール

帯広畜産大学生物資源化学科教授。

研究テーマは残存物質による古代環境復元など。著書に「発掘を化学する」(岩波書店)などがある。

●「モンゴル遊牧民風手づくり

フェルトのできるまで」

~羊毛から生まれたフェルトタペストリー

●日時: 7月17日(土) 18:30~19:00

●場所: 新内ホール

●話し手: 野田聡子(ふじぎのくにのものづくり工房)

新得町大学で開催された「フェルト教室」の講師。教室の参加者で、今回の映画祭に出演のタルバガンライブのバックに飾るフェルトタペストリーを制作。

●「美加代のヒマラヤ報告」

●日時: 7月19日(月) 14:00~

●場所: 新内ホール ●入場無料

●和田美加代

札幌在住。第2回目の映画祭事務局長。

その独特な語り口が人の心にインパクトを与える。昨年未から今年初めにかけて、札幌・帯広中央勤労者山岳会で、ヒマラヤ・アンナプルナ地方のチュールウエスト峰(6419m)に遠征。その様子をスライド、ビデオで報告。

●「田代陽子・世界の映画祭報告その①」

●日時: 7月19日(月) 15:30~

●場所: 新内ホール ●入場無料

●田代陽子

映画「森と水のゆめ」助監督。昨年、第3回より映画祭事務局長を務め、映画祭の顔として活躍。現在も奮闘中。今年3月に開催されたパリの映画祭、オークニー、アラン諸島などの旅の様子をスライドを見ながら報告。

●「早川季良

コールレリーフ(石炭画)野外展」

~地底人の記憶・現代美術の誘い in 新得

●場所: 新内ホール

※最終日7月20日(火)には作者の早川季良さんも来場します。

●作者のこぼれ:

不幸にして地底の労働現場で傷つき、命を落としていた炭坑マンの魂に捧げたい。



新作映画『港のロキシー』をひっさげて、あがた森魚さんが新得にやってきます。
今年があがたさんと一緒に前夜祭を楽しみましょう。

オープニングParty(前夜祭)

7/16(金) 18:30~「港のロキシー」上映(新得町公民館)
20:30~Party(新内ホール) ●参加料: ¥1,000
(軽食・1ドリンク付)

さよならParty(後夜祭)

7/20(火) 18:30~(新内ホール) ●参加料: ¥1,000
(軽食・1ドリンク付)

入場料

- 前売 ●5日間通し券.....¥4,000
●1日券.....¥2,000
●1回券.....¥1,000
当日 ●5日間通し券.....¥5,000
●1日券.....¥2,500
●1回券.....¥1,500

※中高生半額・小学生以下無料
※オープニング・さよならパーティー・ワークショップ・詩の朗読会は別途料金となります。



募集

7月1日(木)より受付開始

●投銭ライブ出演者 7/18(日)

【夕方の部】16:00~17:30
【夜の部】20:30~

●場所:新内ホール

※雨天の場合、夕方の部は野外開催のため、中止とさせていただきます。
ご了承ください。

●ワークショップ参加者

●屋台・マーケット 出店者

(オリジナリティのあるもの歓迎)

●出店料:1,000円(出店日数問わず)

●お申し込み・お問い合わせ:
映画祭事務局

☎FAX **01566-4-3923**

前売券取扱所

- 新得町 ●新得町公民館(教育委員会) ☎01566-4-5111
足尾組合会館(町役場足尾支所) ☎01566-5-2111
相模商店 ☎01566-4-5055 / 本通南1-5
新得共働学舎 ☎01566-4-6330 / 新得町新得
ピーワールド ☎01566-4-5170 / R38号沿
YORKSHIRE FARM ☎01566-4-4948 / R38号沿
北海道新聞林産売所 ☎01566-4-5921 / 4南2
北海道新聞新得支所 ☎01566-4-5203 / 公民館向い
トムラ登山学校レイク・イン ☎01566-5-2141 / 屈足
鹿沼町 ●豊通町民ホール ☎01566-6-3300 / 東町3
北海道新聞産産売所 ☎01566-6-2018 / 新町3
清水町 ●北道新聞三田村販売所 ☎01566-2-2059 / 南3-4
芽室町 ●アットホームむろ ☎0155-62-5704 / 東4南4-1
安田第一スタンド ☎0155-62-2704 / 大通5丁目
帯広市 ●チケットセント ☎0155-27-3550 / 藤丸1F
信正堂書店 ☎0155-27-2816 / 藤丸6F
印象屋ナマステア ☎0155-24-8356 / 西2南23
のんびり屋 ☎0155-35-3589 / 自権16条東13
銀 河 ☎0155-25-2347 / 西1南7・親河街
そはだ一層 ☎0155-22-6679 / 西5南11
なごまたや ☎0155-47-2345 / 大空町
珈琲園/バンカム ☎0155-25-5570 / 西5北2
MNAステーション ☎0155-25-1137 / 帯広駅構内
音更町 ●はんにたいはうす ☎0155-31-0663 / 下土幌
トイビルカ北瀬川ユースホテル ☎0155-30-4165 / 字下土幌北4線東52-8
上土幌町 ●ちろんめっさ ☎01564-2-3753 / 三区
あんだらや ☎01564-2-4589 / 北藤辺
幕別町 ●長夜農園 ☎0155-54-3038 / 明野
池田町 ●高野喫茶ムーンフェイス ☎01557-2-2198 / 清見
釧路市 ●民宿・休荘 ☎0154-41-5503 / 清見7-1-2
ジス・スイズ ☎0154-22-2519 / 栄町8-1
プー横丁 ☎0154-36-5298 / 愛国第4
浦河町 ●ばんぱばば ☎01462-2-4595 / 清町西2-6-20
苫小牧市 ●ステイブレイガイド ☎0144-32-0611 / 三日町
/ ヴェオブレイガイド ☎0144-73-1141 / 川路町
美瑛町 ●北工房 ☎0166-92-1447 / 栄町3-5-31
上高良野町 ●コスモファーム ☎0167-45-4995 / 豊分6
南高良野町 ●FairyCafe&Crafts 人來福(ニングル) ☎0167-52-3108 / 幾寅
亀川市 ●亀川映画サークル ☎0125-23-6330 / 花月町3-1-3
旭川市 ●こども富貴堂 ☎0166-25-3169 / 7条通東1
/ パウワウ・POWWOW ☎0166-27-2566 / 常盤通2
大滝村 ●カレー屋こころ ☎0142-68-6476 / 優徳
江別市 ●ドラマシアター・ども ☎011-384-4011 / 高砂町37-9
札幌市 ●4プラブレイガイド ☎011-261-0221 / 中・南1西4
大丸ブレイガイド ☎011-221-3900 / 中・南1西3
シアターキ / ☎011-231-9355 / 中・狸小路6丁目南3条グランドビル2F
エコネットワーク ☎011-737-7841 / 北・北9西5・エルムビル
これから ☎011-812-4916 / 白石区菊水3条1-6-12
北大生協 ☎011-746-6215 / 北・北8西7・生協会館1F
東京都 ●ナウ・プラサード ☎03-3332-1187 / 杉並区西荻南3-15-3

MAP&宿泊ガイド



※今年は新内ホール近くにテント村をつくれます。
(宿泊無料)寝袋は用意してください。

ACCESS



〈狩鶴高原エリア〉

- クラブメッド・サホロ
新得町狩鶴高原 (予約) ☎011-251-4903
 - ホテルサホロ
新得町狩鶴高原 ☎01566-4-5353
 - ロッジあるぶ
新得町狩鶴高原 ☎01566-4-4468
 - 葉草温泉ホテルかりかち
新得町字新内西1線128番地 ☎01566-4-5956
 - YORKSHIRE FARM
新得町北新得 ☎01566-4-4948
 - ヴィレッジ432
新得町北新得 ☎01566-4-4320
- 〈東大雪エリア〉
- 国民宿舎 東大雪荘
新得町字屈足トムラウシ ☎01566-5-3021
 - オソウシ温泉
新得町字屈足オソウシ ☎01566-5-3338

〈新得市街エリア〉

- 新得旅館
新得町本通北1丁目 ☎01566-4-5714
 - 宮城屋旅館
新得町1条南1丁目 ☎01566-4-5058
 - 越中屋旅館
新得町2条南1丁目 ☎01566-4-5005
 - サホロユースホテル
新得町4条南2丁目 ☎01566-4-6550
 - 民宿サホロハウス
新得町5条南1丁目 ☎01566-4-5800
- 〈新得郊外エリア〉
- トムラ登山学校レイク・イン
新得町字屈足546番地 ☎01566-5-2141
 - 新得温泉ホテル
新得町字上佐幌西3線16番地 ☎01566-4-5837

北海道新聞社は「空想の森映画祭」をサポートします。

北海道新聞・道新スポーツの

購読お申し込みは

ヨムヨドーション

0120-464-104